

教育研究創発国際研修における学術活動報告書

令和 6 年 11 月 11 日

氏名 宋子籍

所属 教育心理学 コース

指導教員名 針生悦子

1. 研究課題 Mandarin-Speaking Children Can Correctly Produce Change-of-State Verbs: Limited Influence of Salience of Event State Structure.
2. 報告する学術活動の実施期間 令和 6 年 10 月 23 日 ~ 令和 6 年 10 月 24 日
3. 日本学術振興会特別研究員 (DC) の現在の採用状況 DC1 DC2 採用無し
4. 学術活動
 - 国外 国内
 - ①英語論文公表
 - ②研究科教員の研究プロジェクト参加
 - ③フィールドワーク
 - ④国際会議 (研究発表 運営補助 出席のみ)
 - ⑤研究会 (研究発表 運営補助 出席のみ)
 - ⑥研究指導委託
 - ⑦留学
 - ⑧国際研修
 - ⑨国際インターンシップ
 - ⑩その他 (具体的に:)

5. 学術活動実施の概要

※上記4で選択した学術活動について具体的に記載してください。括弧内の概要を必ず記載してください。

- ① 英語論文公表
(著者、発表論文名、掲載誌名等、発表年月巻号、発表年月日等、論文内容の概要)
- ② 研究科教員の研究プロジェクト参加
(プロジェクト名、代表研究者名、自身の具体的な活動、活動期間(年月日)及び活動頻度、プロジェクトの概要)
- ③ フィールドワーク
(調査先機関等、国名・都市名、具体的な活動、活動期間(年月日)及び活動頻度、調査先の概要)
- ④ 国際会議
(研究発表・運営補助・出席のみ の別、学会・会議名、国名・都市名、発表題目名、発表形式(口頭・ポスター等)、発表年月日、発表内容等の概要)
- ⑤ 研究会
(研究発表・運営補助・出席のみ の別、研究会名、国名・都市名、発表題目名、発表形式(口頭・ポスター等)、発表年月日、発表内容等の概要)
- ⑥ 研究指導委託
(派遣先機関、国名・都市名、受入身分及び研究、研究テーマと受入教員、受入期間(年月日)、具体的な研究活動、研究発表内容等の概要)
- ⑦ 留学
(派遣先機関、国名・都市名、受入身分及び研究科、受入期間(年月日)、具体的な履修状況、研究発表内容等の概要)
- ⑧ 国際研修
(プログラム名、派遣先機関、国・都市名、派遣期間(年月日)、プログラム概要、研究発表内容等の概要)
- ⑨ 国際インターンシップ
(プログラム名、派遣先機関、配属部署、国・都市名、派遣期間(年月日)、具体的な活動、プログラム内容等の概要)
- ⑩ その他(具体的な活動、活動期間(年月日)及び活動頻度等の概要)

学術活動区分 (①～⑩を記入)	④
<p>【研究発表】 会議名: 2024 APS Global Psychological Science Summit 開催形式: オンライン開催 発表題目名: Mandarin-Speaking Children Can Correctly Produce Change-of-State Verbs: Limited Influence of Saliency of Event State Structure 発表形式: ポスター発表 発表予定年月日: 2024年10月23日・24日 発表内容の概要: 事象(event)は実体の間(例えば人とモノ)のダイナミックな関係からなる。我々は同じ事象を同じく知覚することができるが、ある事象をどのような動詞で表現するかは、言語によって異なっている。その事象を丸ごと一つの動詞によって記述(describe)する言語もあれば、その事象をいくつかのパーツからなるものとみなしてそのパーツごとに動詞を割り当てる言語もある。このような言語固有の属性は、その言語の学習者には学習しやすい語としづらい語を作り出すと考えられる(Gopnik & Meltzoff, 1998)。 中国語でみれば、人がモノに何らかの働きかけを行い、それにもかかわらずモノの状態に変化が生じなかった場合には人の動きを示す動作動詞(action verb)のみが使われるが、モノの状態に変化が生じた場合には結果複合動詞(resultative verb compound: RVC)が使われる。このような構造のため、中国語学習者にとって結果複合動詞を構成する動作動詞の学習は難しくなると考えられる。Chen (2017)は、言語理解(language comprehension)に着目し、中国語を母語とする2歳から5歳までの子ども(以下、中国語児)が結果複合動詞をうまく理解できるが動作動詞をうまく理解できないということを実験によって確認した。 しかし、もう一つの学習の側面である言語産出(language production)において、中国語児が実際の動作場面に対してどのような動詞を産出するかは明らかになっていなかった。このため、中国語児が結果複合動詞と動作動詞をうまく産出できるかを調べるのが本研究の一つ目の目的であった。他方、ある事象の内部構造の複雑性(complexity of internal structure, Talmy, 2001)、それに人がモノに働きかけた様態の顕著性(manner saliency, Slobin, 2004)という理論的考察を踏まえて、本研究は人の働きかけの結果としてのモノの状態変化を明瞭と不明瞭の両方に分けた実験的操作を行い、事象の特性が上記動詞の産出に与える影響を調べることを二つ目の目的とした。 結果として、中国語児(N=100)が大人と同じく適切に結果複合動詞と動作動詞を産出することがわかった。事象特性の効果はモノに状態変化が生じなかった場合のみに確認されており、明瞭な事象が正しい動作動詞の産出に、比較的不明瞭な事象が正しい結果複合動詞の産出に関係していることもわかった。 この結果は、中国語児が少なくとも動作動詞と結果複合動詞の産出において発達上の問題を抱えていないことを裏付けるエビデンスとなる。さらに、動詞学習においては外環境の性質(本研究では事象の特性)に対する感受性(sensitivity)が重要な役割を果たしていることが示唆された。また本研究の知見は、言語獲得における理解と産出の二側面の関係を考えるのにも寄与すると考えられる。</p>	

- (注) ① 年月日は西暦で記入してください。
 ② 英語論文発表については報告する学術活動において発表又は受理されたもの。
 ③ 上記に記載しきれない場合は、ページを追加しても差し支えありません。
 ④ 複数回の学術研究活動による報告の場合、適宜本ページを追加し、2つ目以降についても必要な内容を網羅してください。

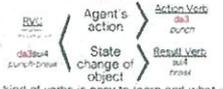
6. 学術活動による成果

※報告する学術活動について、教育分野における国際的リーダー人材の育成とその研究成果を海外に発信することを目的とした教育研究開発国際研修の趣旨に照らし、その成果を具体的に記載してください。学術活動により得られた自身の研究課題につながる成果についてもわかるように記載してください。
 ※本欄に書ききれない場合、ページを追加しても差し支えありません。

一、今回のポスター発表に選ばれた 300 以上の研究を見渡した限り、言語発達の研究は全体的に少なく、中国語についての貴重な成果を海外で紹介できたと考えられる。これまでの研究成果の一部を英文で発信したこと自体は自身の研究キャリアにとっても良い経験になった。


Mandarin-Speaking Children Can Correctly Produce Change-of-State Verbs: Limited Influence of Event State Structure
 Zi Tao Song and Etsuko Hanyu, The University of Tokyo

Background



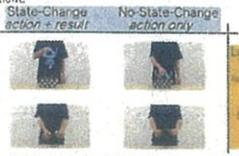
- What kind of verbs is easy to learn and what is not? Inherent conceptual distinction (like what verb structures to use for encoding dynamic events) may make the learners find some items easy to learn while some not (Gopnik & Metzoff, 1998).
- Mandarin change-of-state verbs hold language-specific structures. When someone acts on an object but caused no state changes in that object, monomorphemic action verb is used; if state changes happened (e.g., be broken or moved to another place), a resultative verb compound (RVC, one action verb plus one result verb) is used.

Unexplored Issues

- Chen (2017) found that 2-5-year-old Mandarin-speaking children understand RVCs very well but misinterpret action verbs as entailed state change.
- RQ 1) What about children's production of such verbs?**
- Since verbs refer to the "relationships among entities (Gentner, 1978)", how that structural relationship looks like (here we call the salience of event state structure, see Talmy, 2000) may influence children's lexical processing.
- RQ 2) How would salience of event state structure influence the production?**

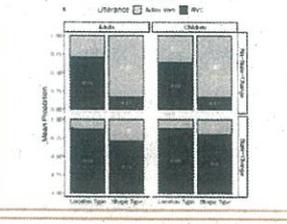
Method

- Mandarin-speaking children (n=100, Mean_{age}=5.11, SD=1.03, Mainland China, 28% living in rural areas) and adults (n=24, Mean_{age}=26, SD=3.41, Tokyo).
- Visual stimulus manipulated by crossing 2 factors: STATE (state-change v.s. no-state-change); a person conducted an action on an object, causing state change or no state change in that object.
- SALIENCE (location type v.s. shape type): Whether the state structure is assumed to be inconspicuous or salient.



- Elicitation task: participants were asked to describe what the agent did to the object in Mandarin after watching each target video.

Results



Discussion

- Children, as adults, can correctly produce Mandarin change-of-state verbs according to whether there is a state change of object caused by the agent's action. This suggests that though their interpretation was previously reported not accurate enough, Mandarin-speaking children hold adult-like ability in producing such verbs from early age.
- Only when events are those without state changes, the more salient the state structure is (i.e., being shape-type events rather than location-type ones), the more action verbs children produced. This indicates that the salience of event state structure has limited influence only for no-state-change events and demonstrated children's early sensitivity to the role of specific event information in lexical processing.

References

Chen, J. (2017). When transparency doesn't mean ease: learning the meaning of resultative verb compounds in Mandarin Chinese. *Journal of Child Language*, 44(2), 699-718.

Gentner, D. (1978). On Relational Meaning: The Acquisition of Verb Meaning. *Child Development*, 49(4), 988-999.

Gopnik, A., & Metzoff, A. A. (1997). Words, thoughts, and theories: The MIT Press.

Talmy, L. (2000). *Towards a cognitive semantics*. Harvard: MIT Press.

二、幅広い心理学研究に触れることができ、興味深い研究視点が多く得られた。言語に関する研究で印象深く感じられたのは、例えば、ボストン大学の研究チーム (Jonathan Zhang et al.) の発表である。それによると、物語への感情的共鳴度 (emotional resonance) が第二言語 (英語) で語られる時より母語 (中国語) で語られる時に強いという仮定に反して、英中バイリンガル参加者たちに母語に比べてより多くの第二言語を用いたエモーショナルトークが見られた。これらのトークは、学校や人間関係 (このドメインにおいて普段よく使われている言語が母語であるにも関わらず) に関したもので、特にタブーや性生活などに関したものであることもわかった。また、子どもの数に関する概念の認知 (numerical cognition) の発達における言語特殊の影響を検討したコロンビア大学の研究チーム (Jean Ee Tang et al.) は、可算名詞と不可算名詞を区別する英語とこのような区別をしない中国語を母語とする子ども (2~4 歳) が、(a) 数の認知を測定するテストバッテリーにおいて類似したパフォーマンスを示したこと; (b) 年齢よりどれくらいの数概念を知っているか (これは number-knower level という) に依存したパフォーマンスを示したことを、明らかにした。さらに、ナイジェリア女性の育児過程における非認知能力=レジリエンスの研究 (Sulaimon, コロンビア大)、タイの性的マイノリティ学生 (Queer students) の受ける教員・学内機構からの社会的態度を分析した研究 (Terrell, ペンシルバニア大)、自己と他者の関係形成に関した多岐に渡る研究テーマ (愛国心の表出, 成人期の親密関係の構築またはそれと児童期の愛着形成との関係, 南アフリカの脆弱環境を生きる子どもと親を対象にした養育行動におけるリフレクション機能, など) から、心理学研究における WEIRD を対象にした研究が圧倒的に優勢である現状の改善の国際的な努力や DEI に関するアカデミアの取り組みも垣間見ることができた。

三、自らの研究を分かりやすく伝えるために、ビデオを使い音声で紹介している研究者もいれば、エッセンシャルな部分を中心にハイライトした研究者もいた。このように、より多くの人に研究内容を紹介する場面では、その発表方法を必ずしも書面の論文形式にはまったものに拘泥する必要はなく、一目瞭然な発表にできるような工夫の必要性を考えさせられた。